

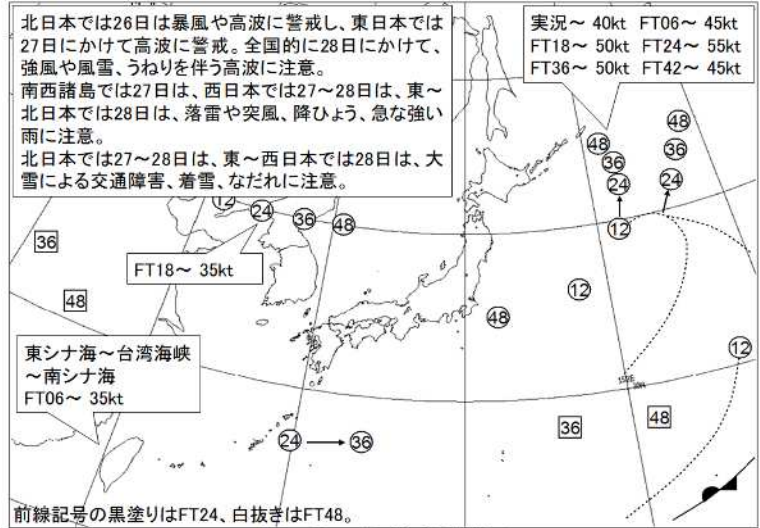
短期予報解説資料 2025年1月26日15時40分発表

気象庁

訂正箇所:4項④防災関連事項の高潮について「警報基準を超過」から「注意報基準を超過」に訂正。

1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5100m 以下の寒冷渦に対応して、前線を伴った低気圧が急速に発達しながら日本の東を北東進、別の低気圧が三陸沖を南東進。北日本～東日本日本海側の山沿いでは3時間で3cm程度の降雪を観測。
- ② アムール川下流域の高気圧と①の低気圧の間で気圧の傾きが大きくなり、全国的にやや強い風が吹き、波が高くなってしけている所があり、北日本の太平洋側では非常に強い風が吹いて、大しけとなっている所がある。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 28日にかけて1項①の寒冷渦は千島の東に進む。対応する低気圧は、27日にかけて急速に発達しながら千島の東～千島近海に進んで、28日は千島の東～オホーツク海に進む。
- ② 27日は、500hPa 5580m 付近のトラフに対応して、朝までに南西諸島付近に発生する低気圧が日本の南に進む。この低気圧は28日朝までに不明瞭になる。28日は、500hPa 5220m 付近で-30℃以下の寒気を伴う寒冷渦に対応して、低気圧が発達しながら日本海に進む。また、この寒冷渦を回る5460m 付近の正渦度極大域に対応して、28日朝までに東日本太平洋側に発生する低気圧が日本の東に進む。
- ③ 28日にかけて、2項①や②の低気圧と大陸の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなりしける所があり、北～東日本太平洋側では非常に強い風が吹き、大しけとなる所がある。また、2項①の急速に発達する低気圧からのうねりの影響を受ける所がある。北日本では26日は暴風や高波に警戒し、東日本では27日にかけて高波に警戒。全国的に28日にかけて、強風や風雪、うねりを伴う高波に注意。
- ④ 2項②の低気圧に向かう下層暖湿気や上空寒気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。南西諸島では27日は、西日本では27～28日は、東～北日本では28日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。
- ⑤ 850hPa で-6℃の寒気は、26日は東日本日本海側に、27日は東北北部～西日本太平洋側に、28日は西～東日本太平洋側に移流。北日本では27～28日は、東～西日本日本海側では28日は、大雪による交通障害、着雪、なだれに注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- ### 4. 防災関連事項 [量的予報等]
- ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 - ② 降雪量(18時からの24時間)：北海道30cm。
 - ③ 波浪(明日まで)：東北・関東6、北海道5、伊豆諸島・沖縄4、その他の広い範囲で3m。
 - ④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北～東日本で注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。